

特集「ネットワーク社会を支援する新しい知能メディア技術」の編集にあたって

西 田 豊 明¹ 工 藤 育 男²

¹ 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

² (株) ジャストシステム

情報ネットワークが急速に普及するにしたがって、巨大な情報スペースを舞台とする新しいアプリケーションやビジネスが続々と出現している。しかし、現状の情報ネットワークはまだ誰にでも使いやすいものではなく、情報洪水や情報ストレスの問題も出始めている。誰でもパーソナル、ビジネス、コミュニティなど幅広い文脈で情報ネットワークを容易に活用できるよう、情報ネットワークユーザを支援する技術が必要である。

本特集号では、最近研究開発が活発化しているエージェント技術を中心に、人工知能、ヒューマンインタフェース、マルチメディアデータベース技術などで培われてきた知能メディア技術をエージェント通信などの新しい情報ネットワーク技術と組み合わせることによって拓かれる新しい領域を取り上げ、情報ネットワークユーザの知的支援の観点から解説する。図-1に各解説で取り上げている話題の概要を示す。

解説1：「ネットワーク社会とエージェントー擬人化された人工システム」では、広範囲で研究開発が進められているエージェント技術を概観する。エージェント技術を人工システムの擬人化の動きとして位置づけ、人間の情報活動の支援という立場からエージェント技術の適用の仕方について論じる。

解説2：「モバイルエージェントとネットワーク」では、有線ネットワーク環境と移動体通信環境の両方で動く分散情報処理システムという視点でエージェントを捉え、エージェント記述言語の詳細に触れながらエージェント技術のネットワークサービスへの応用について解説する。

解説3：「ネットワーク社会とマルチメディアデータベース」では、ネットワーク社会を支える情報共有基盤としてのデータベース技術の最近の動向を紹介する。情報の収集と組織化、映像データベース、空間データベースへのアクセス制御などを取り上げる。

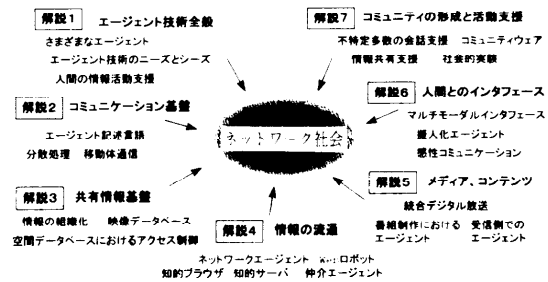


図-1 本特集で取り上げている話題

解説4：「ネットワークエージェントによる情報収集と流通」では、情報ネットワーク上の情報流通を促進する知能情報処理技術について、Webロボット、知的ブラウザ、知的サーバ、仲介エージェントなどを取り上げて解説する。

解説5：「放送メディアにおける知能情報処理技術」では、マルチメディア・情報ネットワーク時代における放送メディアの方向性について議論し、コンテンツの制作と受信におけるインテリジェントエージェント技術の展開について解説する。

解説6：「ネットワーク利用者を支援するマルチモーダルヒューマンインタフェース」では、人間と情報ネットワークの間のインタフェースにおける新しい動きについて解説する。擬人化エージェントなどを取り上げ、マルチモーダルインタフェースによってユーザの感性に訴える対話性の高いインタフェースの実現法について議論する。

解説7：「広域情報ネットワークによるコミュニティ支援」では、新しい情報ネットワーク技術は個人やグループの枠を越えて、不特定多数のオープンな人の集まり(=コミュニティ)の形成や活動を支援すべきであるという観点から、会話・情報共有支援技術を紹介し、フィールドにおける実験例を紹介する。

(平成8年11月18日)